

「社会保障・税一体改革」をやめさせ、応能負担で社会保障の拡充を！

ほっかいどうの社会保障

2012年4月16日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

広がる「社会保障署名」 道内で **25万筆超**
世論と運動をさらに広げ、改悪を阻止し拡充させましょう

道内でも、社会保障の改悪をやめて、拡充を求める署名が広がっています。中央社保協の署名をはじめ、各団体が取り組んでいる医療、介護、年金、保育、福祉、生活保護などの署名数は25万筆を超えています（道社保協集約中）。

保育の改善を求める署名は12万筆、北海道民医連は10万筆、新婦人や年金者組合などでも万単位の署名が集まっています。民主党は自民、公明などと協議し、短期間で悪法を成立させようとしています。社会保障の拡充を求める世論は9割を超えています。多くの人たちと共同し、消費税増税反対の署名とともに社会保障署名をさらに広げましょう。



新入職員も行動に参加
(道民医連ニュースより)

「小宮山厚生労働大臣、消費税増税やめて！社会保障を拡充して！」

4.14「明日の安心」対話集会 in 北海道 会場近くで緊急行動 20名参加



4月14日、札幌市内で、小宮山洋子厚生労働大臣が参加して政府主催の「明日の安心」対話集会が行われました。北海道社保協と消費税廃止道各界連は、会場近くで、緊急宣伝署名行動を20名で行いました。多くの方がチラシを受けとり、署名にも協力してくれ、「頑張る」と激励も受けました。

「バラ色の未来はない」「消費税の使い道は説明できない」

小宮山大臣

対話集会は、参加申込も多く、締切日前に定員いっぱいになりました。当日は、道北の豊富町からの参加者をはじめ約100名が参加、小宮山大臣が30分説明し1時間対話しました。

大臣は、「改革」の必要性について「高齢社会、超少子社会が進む。国の借金を子どもにつけ回しできない」と強調。「消費税は全て社会保障に使います」と話す一方で、「改善は1%分。少しは変わる」と発言しました。



「消費税増税ではなく別な方法で」「子ども新システムは、白紙撤回してほしい」など意見続々

討論では、参加者が一斉に手をあげました。消費税について、「格差が広がる中なぜ消費税増税なのか。もっと他の方法があるのでは」と不安と要望も出され、「4%分の使い道を具体的に説明してほしい。安心して帰れるように説明してほしい」との質問も出されました。大臣は「具体的には説明できない」と説明になっていないことも付け加えました。

福祉保育労の中川さんは、介護労働者の処遇改善や障害者新法の動きにも触れ、子ども新システムの撤回も求めましたが、大臣は「子ども達のために必ずるので撤回はしません」と答えました（写真）。ヘルパーの代表も「生活援助短縮問題で利用者さんなど混乱がある」と改善を求めました。

「後期高齢者医療制度はどうか」の問いには、「年齢差別があるので後期高齢者制度は廃止もめざしたが、地方自治体の合意が得られていない」と回答。「廃止した場合、保険料が上げないでほしい」と要望が出されました。大臣は「バラ色の未来はない。今の制度を維持するのも難しい」とも発言。

また、65～70歳未満の医療費の問いに、「来年は必ず2割にします。誤解されていますが、今後65歳になる人は今3割負担で、2割に負担が減るんです」と強調しました。

4月21日（土）は 宣伝行動(11時～大通西3丁目) パレード(12時～)
学習会「4月からどうなる道民の生活」(13:30～教育文化会館)